



RENKEI

第13号

2020.7

発行元

松江市在宅医療・介護連携支援センター TEL: (0852) 61-3741 FAX: (0852) 21-5377

住所: 〒690-0852 島根県松江市千鳥町70番地 松江市総合福祉センター1階 社会福祉法人松江市社会福祉協議会

ホームページもご活用下さい >>>

松江市在宅医療介護

検索

エッセンシャルワークとしての役割

社会福祉法人豊心会 特別養護老人ホーム明翔苑

施設長 武部 幸一郎

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、当施設でも、その対策によって、面会や外出、イベント等が中止や限定的となったことで、利用者・家族・地域との“繋がり”は一気に希薄となりました。職員はご利用者の廃用が進むのでは?と心を痛めつつ、自分がウイルスを持ち込んでご利用者や仲間の職員とその家族に感染させてしまったら?と緊張の毎日を送っています。

また、他の事業所の職員さんとの直接的な関りも減り、本来、ご利用者のその人らしく生きる、自立を支援する、人と人を繋ぐという対人支援をチーム(多職種)で実践するお仕事ですが、十分なことができない現状には、課題が山積していると感じています。当たり前のようにあった、人と人の繋がりが、これほど尊いものであったのかと再認識させられています。

ご利用者の家族からは「本人(利用者)に会いたいです!いつになったら面会できるんですか?」といった悲痛な思いを訴える方や「会わないことで私のことを忘れてしまうのでは?」と心配される方もいらっしゃいました。そこで当施設では、5月4日からタブレット端末を活用したオンライン面会を実施しました。あるご家族は、直接は会えないが、変わらぬ様子であった親の顔を見て、大変安堵されたご様子でした。また、ご利用者の家族がご逝去された際は、いわゆる“密”を避けるため、通夜の数時間前に職員が付き添って



オンライン面会の様子

斎場へ出向き、同席のご家族の体調を確認しつつ、距離をとってお別れのお手伝いをいたしました。

私たちが従事する福祉・介護といった社会福祉事業は地域の生活を支えるエッセンシャルワークとして、リスクを最小限にとどめつつ、事業を継続していくことが一番の地域貢献につながると考えています。“コロナ”により社会の価値観も変わっていく中で、揺るぎない部分と前向きな変化を取り入れる部分を併せて実践し、*CS・ESにつなげたいと思います。そして、感染症の他にも災害への備えと併せた対応についてBCP等を定期的に更新しつつ、今後ご利用者・ご家族と職員の生活を守っていききたいと思います。

【エッセンシャルワーク・エッセンシャルワーカー】とは?

英語で「必要不可欠な」を意味するエッセンシャルと、「労働者」のワーカーを組み合わせた言葉。医療、福祉、エネルギー、通信、農業、食品など「生活を支える」ライフラインに携わっている職業の人々としている。新型コロナウイルス感染症の拡大で、重要性が再認識されている。

※CS(顧客満足) ES(従業員満足)

島根県訪問看護協会松江支部は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う現状把握を「アンケート形式による現状調査」と「訪問看護ステーション松江支部所長会」で行い、その結果を松江市と共有し、今後に備える準備・確認を行いました。

当センターは、現状調査のアンケート作成と集計、松江市との意見交換会の準備などの支援に加わらせていただきました。

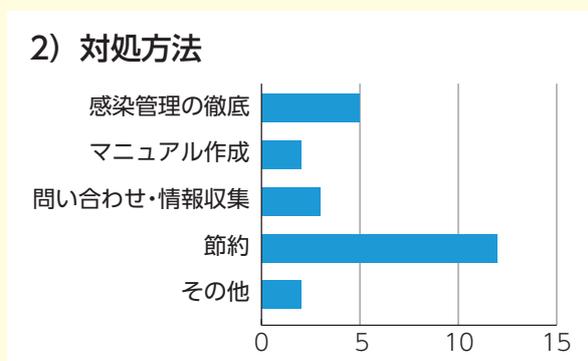
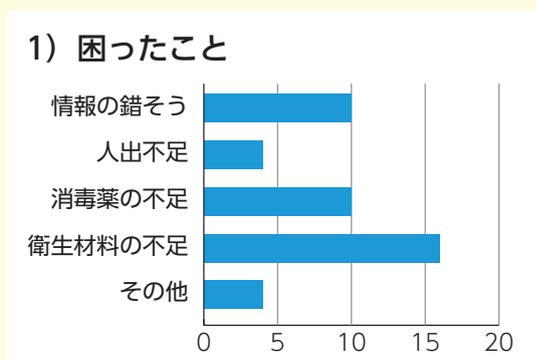
アンケートによる「新型コロナウイルス感染拡大に伴う現状調査」結果(5/29)

対象:訪問看護ステーション 松江市内30事業所

回収率:83%。以下に質問内容を抜粋し、お知らせします。

「コロナ感染拡大に伴い困ったことがありましたか?」の問いに88%が「あった」と答えました。

「困った内容」・「対処方法」は、図1) 2) に示してあるように、物品の不足や情報の錯そが多かったようです。その対処は、各々の情報収集や節約など、自分たちで工夫して、この危機状態を乗り切る努力がなされてきました。



「利用者さんへの影響がありましたか?」の問いには、68%が「あった」としました。

自由記載欄には、具体的な事例として、「感染への不安や恐怖心を持つ利用者が多くなり、精神的不安定、鬱状態や認知機能の低下があった」「外出自粛などの行動制限から、ADL・体力低下により、活気がなくなる」などの記載がありました。

訪問看護ステーション松江支部の所長会(6/16)開催

3か月ぶりの定例会は、感染防止策をとりながら開催されました。上記調査結果を基に、各ステーションから、「初期対応について」「利用者への対応について」「感染対策関連」についての報告がありました。

また、「あなたたちが外から感染を持ってくる・感染媒体だと言われ、傷ついた」、その反面、「最後の砦と言われ、そのプレッシャーに押しつぶされそうになった」など、現状調査に盛り込めなかった現場での状況が語り合われました。

最後に、
・何よりも感染予防の物資入手が困難だったステーションが多い状態だった。

今後の流行も懸念されるので、各ステーションで備蓄していく必要がある。

・有熱者対応でもアセスメントを行って、適切な対応をしていこう。

・万が一「濃厚接触者」と接しても感染者とならない感染予防策をすることが大事。

という点を、自分たちの役割とお互いの連携として参加者全員が確認し合い、会議は終了しました。

参加させてもらった当センター職員は、訪問看護師さんたちの困難に対しての前向きな姿勢と問題解決に立ち向かう仲間の“絆”に感動し、逞しさを感じました。

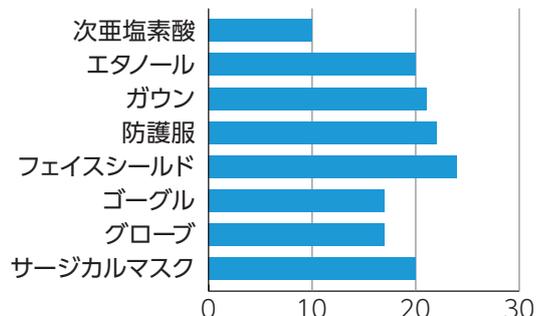
新型コロナウイルスに関する影響調査(5/20)結果

特別養護老人ホーム、デイサービス、ヘルパー事業所、軽費&ケアハウス、介護老人保健施設、養護老人ホームを対象にアンケート調査が行われました。回収率 95%。以下に結果の一部をお知らせします。

「感染対策に対して困っているか」の設問に、「困っている」が、約9割でした。なかでも衛生材料の不足(参照:「図. 不足している物品」)が深刻でした。また、感染拡大防止対策についての Know・How がなく、苦慮しているそうです。「十分な対策が出来ているか」の設問に、「やってはいるが不十分」と70%が答えていることからその様子が伺えます。

事業継続計画 (BCP) について作成済み (運用中)・作成中が69%でした。シミュレーションを実施し、感染対策を含めた課題から、BCP のブラッシュアップの必要性を感じた施設もありました。

図. 不足している物品



松江市、松江保健所との意見交換会(6/5)

このアンケート結果を基に、6月5日に松江市・松江市保健所との意見交換会がありました。

感染防止対策への助言や感染防止物資の調達等、話しあいがなされました。施設内感染発生時の相互支援、感染予防対策の方法等、現場を巻き込んでの確認もできたようです。コロナ禍の状況ではありますが、次への対策準備に前向きな取り組みが進んでいます。

松江地域介護支援専門員協会 (ケアマネ協会)

6月18日の役員会では市内で最初の事例が発生した後の状況について、情報共有がありました。

〈出された意見〉

- 休業となったデイサービスの他サービスへの振り替えで大変だった。利用者のサービスが休止になった時の対応は、ケアマネだけで考えず、サービス担当者とのような対応ができるかを一緒に考えたい。
- 5月の連休に県外のご家族が帰省された際に、サービス事業者がサービス提供を2週間自粛され、その間の代替えサービスの対応に追われた。
- 居住系施設の入居者の方が、外部のサービスを利用できず、状態に変化があった。
- 5月給付管理に関する厚労省からの情報が次々と出されたが、解釈に困った。協会として介護保険課に確認、迅速に回答があり助かった。
- もし、担当の利用者が発熱などあった時に、どのように対応すればよいかわからない。

これを受けて、現在対応のフローチャートを作成中です。

また、協会の方でケアマネジャー向けのアンケートの実施予定もあるということでした。

新しい研修のありかた ～50代のおばさん 初めてのオンライン研修～

在宅医療・介護連携支援センター 角 知 子

在宅医療・介護連携支援センターでは「松江市内の医療と介護の研修カレンダー」をセンターのホームページに掲載していますが、2月からは新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、ほとんどの研修が中止、延期となっています。その中で、全国的には「オンライン研修」に取り組む団体も出てきました。

6月3日、米子市錦海リハビリテーション病院主催ケアマネジャー向けのセミナー「2020年診療報酬改定～これからの医療・介護連携」ではGoogle Meetを活用されました。事前にメールで申し込みすると、研修が始まるまでにPDF資料と研修会場のURLがメールで返信され、時間になると、URLをクリックし、入場するというものです。研修では、その資料を使いながら角田院長先生が説明をされました。

また、他の研修ではテレビなどでもよく見かけるZoomを使用した研修もありました。

事前に、Zoomのダウンロードから始まり、「マイクをミュート?」、研修終了時に「退室ってどうするの?」と、とまどいもありました。インターネットの環境は必要ですが、3密を避けることができ、移動時間が必要もなく、子育てや介護がある人でも受講のチャンスが増えるかもしれないことを考えると、研修方法のひとつとして考えていく必要があると思いました。

顔と顔のみえる関係も大切にしながら、センターでは今後、オンライン研修も検討していきたいと考えていますので、その際にはぜひご参加ください。



Information ～活用しよう! いろいろな情報～

在宅医療・介護連携支援センターのホームページ「新型コロナウイルス関連の情報」にも掲載しています。

☆「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント 厚労省

「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントや詳しい留意点が厚労省から出ています。リーフレットやポスターなどダウンロードできます。

利用者さんなどの説明に使用できます。ご活用ください。

☆コンタクトポイントは、S字に一方方向にふく(コロナ vs 源さん)

病原体と消毒薬の関係やコンタクトポイントのふき方について、新型コロナウイルス感染症予防関連スライドを追加いたしました。ぜひ、ご覧ください。

豊田赤十字看護大学 源さん> スライド「コロナ VS 源さん Part3
コンタクトポイントは、S字に一方方向にふく」>画像をクリック



☆在宅医療における新型コロナウイルス感染症対応Q&A(改定第2版 2020年6月20日)

日本在宅医療連合学会は新型コロナウイルス感染症が在宅医療現場に与える影響に関するアンケート調査を実施、対策ワーキンググループを立ち上げ、Q & Aを作成しています。

今回の改訂版では、在宅医療の現場における対策に加え、高齢者介護施設・事業所等における新型コロナウイルス感染症への対応(感染が疑われた場合の感染防御予防策、感染予防具の不足への対応等)が付け加えられました。是非アクセスしてご覧下さい。

日本在宅医療連合学会> COVID-19 関連情報

☆「看護職のみなさまへ」新型コロナウイルス感染症に関する相談窓口の紹介

公益社団法人 日本看護協会ホームページへアクセスし、以下のように検索して下さい。

公益社団法人 日本看護協会>新型コロナウイルス感染症に関する情報について 詳細はコチラ>新型コロナウイルス感染症に関する看護職の相談窓口>感染管理>看護職を対象とした新型コロナウイルス感染症に関するメール相談窓口